

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前 鈴木滉大 学校名 千葉市立園生小学校

実施学年 1年生 教科 国語科

単元名 あいうえおであそぼう

《学びを深めたいポイント》

●結論

ICTを活用することで、協働的な学びを起こし、多様な言葉に触れ言葉の世界の豊かさや面白さを実感させる。

● 詳細
本単元では、五十音の文字と音に関心を持ち、身の回りの言葉を意欲的に集め、正しく読み書きしようとする態度の育成を目指す。

特に、一人で言葉を探す活動では、語彙数に限りがある 1年生の児童にとって、発想の広がりには限界がある。そこで、SKYMENU「発表ノート」を活用する。各自が見つけた言葉を「発表ノート」に集約し、クラス全体やグループ内で共有する活動を取り入れる。

これにより、児童は一人では思いつかなかった多様な言葉に触れることができる。友達の発見を知ることを通して、言葉の世界の豊かさや面白さを実感させたい。そして、協働的に学び合う中で、文字や言葉への関心を一層高めていくことを、本実践で深めたいポイントとする。

《SKYMENU 活用のポイント》

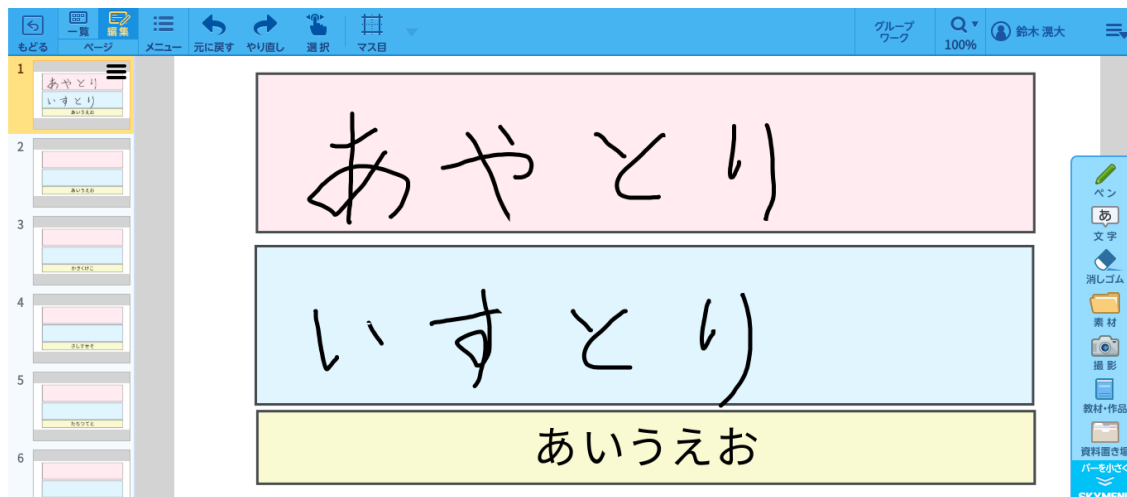
●結論

- ・「授業」モードの「画面一覧」を活用した協働的な学びをデザインする
- ・「発表ノート」によって言葉集めを円滑化し、児童の主体的な取り組みをデザインする
- ・「提出箱」によって多様な言葉に触れ、適切な言葉を自分から選択し、うたを完成させる

●詳細

本実践では、児童一人ひとりの言葉集めの結果を、瞬時に集約・共有できる「Skymenu」の特性を最大限に活用する。紙のワークシートでは難しい「他者の考えを即座に全員で見る」という活動を「画面一覧」や「発表ノート・提出箱」では可能になる。これにより、友達の多様な言葉から新たな気付きや学びが触発され、児童の思考を活性化させることがポイントである。

1年生の児童にとって、書き間違いは学習の妨げになりやすい。発表ノートであれば、間違えてもすぐに修正できるため、児童は失敗を恐れることなく、安心して言葉探しの活動に何度も挑戦できる。また発表ノートは自分が欲しいページのみを児童自身がコピーできる。そこで取り組みが速い児童にはコピーをさせることで、より言葉を選定した「あいうえおのうた」を作成させるといった活動も行えた。



＜実際に児童に配付した発表ノート＞

1つ1つ取り組ませることで、飽きさせず「できた!」という達成感を味わえるようにしている。

また1つ1つにすることでコピーも可能になるので、納得いかない行を新たにコピーし作成できる。

児童は前時に「あいうえおであそぼう」の秘密を発見しており、教科書に色分けをしている挿絵や色を手がかりに、どの枠に言葉を書けばよいか視覚的に判断できる（実際の教科書は著作権に違反する恐れがあるため、以下の画像はスプレッドシートで再現したもの）。これにより操作に不慣れな1年生でも、迷わず言葉を書き込み、活動に集中できるよう環境を整えた。

ひと もじが さい しょに ある	ひ み つは あ い う え お の な か の	ん	わ く わ く	ら ん ら ん	や か ん	ま つ む し	は る の ひ	な の は な	た こ い と	さ ん か く	か き の み	あ や と り
			わ い わ い	る ん る ん	よ う か ん	み の む し	ふ ゆ の ひ	の の は な	つ り い と	し か く	く わ の み	い す と り
			わ い う え を	ら り る れ ろ	や い ゆ え よ	ま み む め も	は ひ ふ へ ほ	な に ぬ ね の	た ち つ て と	さ し す せ そ	か き く け こ	あ い う え お

<前時に、児童の教科書には赤と青で「あいうえおであそぼう」の秘密を可視化してある>

学習活動

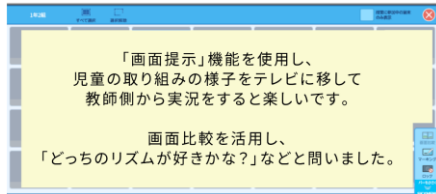
SKYMENU 活用場面

活用のポイント

①「あいうえおであそぼう」を音読みし、前時に学習した言葉の「秘密」を振り返り、今度はオリジナルの「あいうえおであそぼう」を作るという学習の見通しをもつ。

②では、「授業」モードの「画面一覧」をテレビに移して、教師が実況中継をした。

時間制限を設け「○○さんはもう3つ見つけているね!」などと実況をすると盛り上がる。



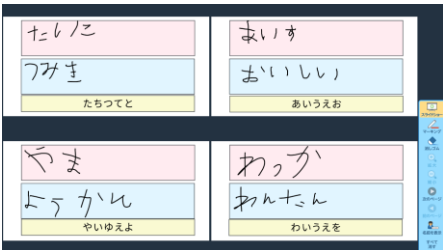
出てきた言葉をもとに、どれを組み合わせるといいかを検討した。

- A「あめんぼ」「うきわ」
 - B「あかいろ」「あおいろ」
- どっちのリズムが好き?

②ウォーミングアップとして、「あ行」の言葉を全体で発表し合い、本時の言葉集めの活動への意欲を高める。

① 個人の活動
「発表ノート」に個人でどんどん書き込んでいく。
※まずは完成させる→その後にリズムのよさを追求するように声掛けをする。

① 個人の活動
事前に配付された色分けテンプレートの枠内に、ペン機能を使って思いついた言葉を書き込む。



① 個人の活動
まずは他者の意見に左右されず、児童が自力で考える時間を確保する。間違えてもすぐに消せるため、安心して取り組める。
※ここでリズムのよさを求めすぎると児童が悩み、ペンが止まるので、できたことをとにかく承認し、随時スライドショーで共有。

※「発表ノート」はリンクをつけられるのが良い。言葉の一覧サイトをリンクし、ヒントを閲覧できるようにした。

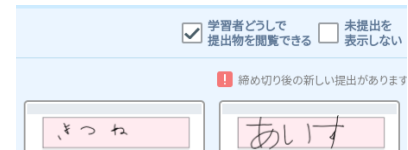
② 共有の活動

「提出箱」を自由に閲覧する。



② 共有の活動

提出物を閲覧できるをこのタイミングで✓することで、児童は友達が書いたものに興味関心をもって閲覧する。



② 共有の活動

グループの友達と互いのノートを見せ合ったり、提出箱からクラス全員のノートを見たりして、自分にはなかった言葉を見つける。見つけた言葉は自分のノートに書き足してよい。

ま ①完成した自分だけの「あいいうえおであそぼう」を数名が代表して音読

をする。クラスで人気だった歌は、全員で音読する。

②新しく学んだ言葉や楽しかったことを振り返り、クラス全体で共有する。

・児童の反応

「〇〇さんのノートを見て、『あか』を『あかいろ』にしました」

「たくさんの言葉が見つかって楽しかったです」

《実践を振り返って》

●結論

- ・6月頃の1年生でも45分の授業で十分にICTを活用することができると感じた
- ・書き直しが頻繁に出る活動のときにICTを活用することは効果的であると感じた
- ・語彙が少ない時期の1年生だからこそ、ICTで多様な考えに触れられるのはよいと感じた

①ではユニークな言葉を見つけた児童や、たくさんの言葉を集めた児童の発表ノートをピックアップし、テレビに映し出す。

②授業の終わりには、各発表ノートに評価をつけて返却することで、学びを深めることができた。



①では「提出箱」のスライドショーでテンポよく提示することで、音読をさらに楽しく演出できる。



◎詳細

私が初めて1年生を担当したときには、通常のノートで授業をしていた。一人で言葉を探して「あいうえおであそぼう」の歌を完成させる活動では、数個の言葉を思いつくと手が止まってしまう児童の姿が見られ、歌を完成させるだけで授業が1時間以上かかってしまうことがあった。その失敗から、紙のワークシートを活用する年もあったが、それでもうまくいかず、児童の表情が曇ってしまう授業を展開してしまった。同僚も同じ悩みを抱えていて、今年の1年生にはそのような思いをさせたくないと思い、どうにかしたいと考えたことがこの実践の出発点であった。

そして、今年度は「Skymenu」の「画面一覧」機能や発表ノートの活用を思いつき、実践をしてみた。クラス全員の考えを共有した瞬間、教室の空気が一変した。「そっか!それ(その言葉)もあったね」「〇〇ちゃんのノート、すごい!」という驚きと楽しげな声が、自然と湧き上がっていた。友達の多様な視点に触発され、児童たちは再び GIGA 端末を手に取り、自分の「あいうえおであそぼう」に新たな言葉を書き足し始めた。数年前に行ったノートやワークシートの活動では到底叶えられなかった出来事である。1年生にとって、せっかく書いた字が間違っていたときに、消しゴムで消すという作業は非常に大変である。「発表ノート」ではそのような大変さがなく、すぐに消せることも児童の意欲が下がらずにとっても効果的だったと感じている。ねらいとした「協働的な学びを起こし、多様な言葉に触れ言葉の世界の豊かさや面白さを実感させる。」を、児童自身が心と体で実感した瞬間であった。失敗を恐れずに書いたり消したりできるという ICT ならではの安心感と協働的な学びをシームレスに行える点が、児童の旺盛な試行錯誤を支え、結果として言葉そのものへの関心を高めることにも繋がったと個人的に感じている。

この実践は大きな成果を上げた一方、次へのステップ(課題)が3つ明確になった。

1つ目が、集めた言葉を「活用」する活動への発展である。今回は「集める」ことで言葉の豊かさに気づかせたが、これらの言葉を使って短い文を作る活動などを設定し、思考力・表現力の育成にも繋がられる。本単元以下で、そのような発展的な指導を行いたい。

2つ目が、児童間の「双方向性」をさらに高めることである。今回は反応が中心だったが、グループワーク機能や気付きメモなどを活用し、互いの良い点や発見を言葉で伝え合う活動も取り入れ、より深い協働学習を目指したい。

3つ目が、「発表ノート」の  機能をもっと活用するということである。本単元は「長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくこと」と「口形、発声や発音に注意して話すこと」を資質・能力として身につけることが重要である。従って自分が音読している姿を撮影しリズムや口形、発声を振り返れるようにし、自身の成長を実感できるような展開も行えた。

SKYMENU Cloud は、子どもたちの思考を瞬時に繋ぎ、学びを何倍にも増幅させる強力なツールであると改めて実感した。今後も「ICT の効果的な活用」はどのような瞬間なのかと常に追究し、児童一人ひとりの可能性を最大限に引き出す授業づくりに邁進していきたい。